



最終日の営業をするスーパーやまと富士見店 山梨市富士見2丁目

最終日の営業をするスーパーやまと富士見店 山梨市富士見2丁目

競争激化 負債16億

スーパーやまと全店閉店

9店180人解雇、破産申請へ

山梨日日新聞 logo and date 12/7

山梨日日新聞 logo and date 12/7

山梨日日新聞 logo and date 12/7

閉店したスーパーやまとの店舗

- 富士見店 (山梨市富士見2丁目)
- 津久井店 (山梨市津久井)
- 須玉店 (北北市須玉町若神子)
- 長坂店 (北北市長坂町長坂上条)
- 小淵沢店 (北北市小淵沢町)
- 奥川店 (北北市奥川町牧原)
- 新鮮やまと大里店 (甲府市大里町)
- 春日店 (箱根市春日町小松)
- 六郷店 (市川三郷町六郷)

平昌五輪ロシア除外

IOC個人は条件付き容認

ロシア選手の出場をめぐって、IOCは個人選手に限り、一定の条件を満たせば容認する方針を示した。

主催

失敗から学ぶ経営学

～地域土着スーパー「やまと」の教訓～

202年 月 日 ()

元 地域土着スーパーやまと 代表取締役 小林 久



小林 久 プロフィール

👤 1962年山梨県韮崎市生まれ、韮崎高校、明治大学商学部卒。

🏠 家業である「株式会社やまと」入社後、店長、専務取締役を経て2001年代表取締役就任。

😊 先代からの赤字経営を引き継ぎ、最盛期16店舗、年商64億円、従業員数300名に成長。

「地域土着」の経営手法が中小企業診断士試験に出題 ～ 最年少で県教育委員長就任。

😞 2017年12月、信用不安からくる業者の納品停止により自己破産申請、創業105年の歴史に幕。


負債総額17億円、連帯保証人の自身も自己破産へ。

📖 著書「こうして店は潰れた～地域土着スーパー「やまと」の教訓」・「続・こうして店は潰れた」

✍️ 現在は、全国の中小企業経営者向けの講演と、自身の経験に基づく経営相談を続けている。



① 銀行融資のために事業承継～倒産危機から赤字体質の脱出へ

- 何の不自由もなかった幼少期～青年期 苦労知らずの「なんにも専務」
- 目の前にヨーカドーが出店！～安売りで対抗して**大赤字（▲1億5千万円）**に転落
- **資金ショート**の危機～**社長交代！**～黒字化に向けた大改革に着手、聖域なく、徹底的に！
安売り廃止、取引先の全面見直し、赤字店舗の閉鎖、親族の解雇、電気代・家賃・チラシ折込料他削減
リベート廃止、税理士・社労士交代 **2年後、黒字転換**
-  「**地域土着経営**」へのかじ取り ～救ってくれた地域への「恩返し」
破綻スーパーへの居抜き出店(12/16店舗) 移動販売車、レジ袋有料化、生ゴミ処理機、ホームレス雇用、障がい者・高齢者雇用、無料EV充電、貧困家庭への食品提供、その他環境への取り組み、メディア戦略

② 順調だった経営～環境の変化から再び窮地～倒産へ

□ 居抜き店舗が負担に～既存「ドル箱店舗」の利益では居抜き店舗の負担を賄えず、再び赤字転落

□ 資金繰りの切迫から金融機関に返済猶予（リスケ）要請へ

□ 振り子は返る～買収拒否による競合他社の反発、メイン取引業者の手のひら返し

□ 信用不安の怖さ～取引先の取り立て、毎日社長の行動追跡、365日「日繰り資金繰り表」の送信命令



保証金追加、支払いサイト短縮、追加担保請求、取引停止、従業員の引き抜き、頻繁に来る信用調査会社

□ 4年後、再び黒字復活！ しかし「そうは問屋が卸さない」～倒産の顛末とは・・・

それでも会社の倒産はすべて社長の責任

③倒産・自己破産を経験して思うこと～皆様へのメッセージ



□ スーパーやまとが潰れた5つの理由

①ワンマン経営 ②地域貢献 ③日銭商売 ④成功体験 ⑤信用不安

～経営とは一喜一憂のギャンブルではなく、「時間軸」の意識が不可欠～

- 倒産社長が考えること「3つ」～1.従業員 2.取引先 3.地域への影響（最後に4.自分のこと）
- 倒産前後のドラマ～破産費用のカンパ・恐怖の「債権者集会」・潰れた店舗前で本の販売
- 破産者の日常～「一文無し」の倒産社長の生活とは・・・ 仕事・家族・お金・車はどうするの？
- 倒産の後日談～命を削った戦いの後に残ったものとは？ それでも会社経営は価値がある！



老舗スーパー倒産の経験を講演する元社長
 朝日新聞 2020.8.30(日)
 ひと
 こばやし ひさし
 小林 久 さん(57)

「創業105年の会社を倒産させた語りがに笑いが起る。1991年(大正元)年に始まり、山梨県で展開したスーパー「やまと」の元社長だ。中小企業の経営者に表体験を話す。「同じ経験をしてはくれない」との思いがある。38歳で3代目を継いだとき会社は1億5千万円の赤字だった。負債

けたくない一心で、2年間で黒字に転換させた。利益より地域貢献を優先させて過疎地に派手な移動販売車を走らせた。家庭の生計ミを店先で集め肥地にしたり。地域を支えるという自負がある。人口減やコンビニの進出などで売り上げが落ち、2017年12月に9店舗を一斉閉店。負債総額16億9000万円。解雇した1800人の従業員や債権者への自責の念で夜逃げや死すら頭をよぎった。思いもよらぬことが起きた。住民や取引先から、それまでの営業への感謝や激励の言葉が寄せられた。カンパで破産手続きの費用をまかなうこともできた。従業員は再就職先もほぼ決まった。ただでは振はない。電気も水道も止めた元社長室で、順末記を書いて出版に盛り込んだ。全国から講演に呼ばれるようになった。今、コロナ禍で苦しむ経営者に伝えた。「じたはたして弱音を吐いて助けを求めよう。ダメなら胸張って終わらしてしまおう」。変わらぬ決心で、経営者を支え続ける。写真 榎原順和

折々のことば 鷲田 清一 1444

人の心はポイントカードのデータや全国平均では測れません 小林久

買物難民のために移動販売を始めた。循環型社会に取り組む者々のために生ゴミを「仕入れ」たり、ホームレスを正社員に採用したりと「頼まれたら断らない」を旨としてきた山梨の「スーパーやまと」の元社長。この言葉には商店は地域と共に生きるものという思いがこもるが、巨大資本の攻勢と消費者の漂流への苦い思いもよぎる。その破産願末記「こうして店は潰れた」から。

2019・4・26

2017年(平成29年)12月8日 金曜日

スーパーやまと全店閉店 利用客戸惑い

地域の「台所」惜しむ声

スーパーやまと全店閉店 利用客戸惑い

山梨県山梨市山梨町の「やまと」スーパーの閉店。利用客は戸惑い、悲しむ声が上がっている。閉店した店舗の前には、利用客が涙を流しながら立ち去る姿が見られる。また、閉店した店舗の前には、利用客が涙を流しながら立ち去る姿が見られる。

山梨県山梨市山梨町の「やまと」スーパーの閉店。利用客は戸惑い、悲しむ声が上がっている。閉店した店舗の前には、利用客が涙を流しながら立ち去る姿が見られる。また、閉店した店舗の前には、利用客が涙を流しながら立ち去る姿が見られる。

山梨県山梨市山梨町の「やまと」スーパーの閉店。利用客は戸惑い、悲しむ声が上がっている。閉店した店舗の前には、利用客が涙を流しながら立ち去る姿が見られる。また、閉店した店舗の前には、利用客が涙を流しながら立ち去る姿が見られる。

2017年(平成29年)12月18日 日曜日

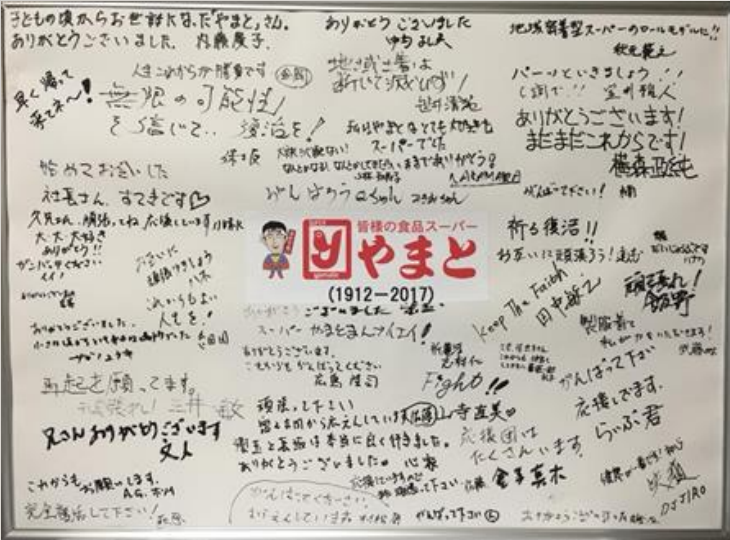
破産手続開始通知書

山梨地方裁判所第1民事部
 裁判所書記官 川上 隆子

当裁判所は、次の破産案件について、平成29年12月18日午後4時45分、下記のとおり破産手続を開始しましたので通知します。

山梨県山梨市山梨二丁目12番36号
 山梨県山梨市山梨二丁目12番36号
 山梨県山梨市山梨二丁目12番36号
 山梨県山梨市山梨二丁目12番36号

1 破産決定の注文
 2 破産手続開始の通知
 3 破産手続開始の通知
 4 破産手続開始の通知



続・こうして店は潰れた

地域上着スーパー「やまと」の挫折と教訓

やまと元社長
 小林 久

倒産すると会社は、社長と従業員はどうなるのか?

2017年12月、山梨県の老舗スーパー「やまと」が経営破綻。倒産に至った経緯・原因を元社長が赤裸々に綴ったドキュメント。

本日はご参加ありがとうございます！

ささやかなプレゼントを贈ります、お時間ありましたらぜひご一読くださいm(__)m



【絶版本】 こうして店は潰れた ～地域土着スーパー「やまと」の教訓～

一冊丸ごと無料公開（転送自由）

(株)商業界 2018年8月発刊（6刷）

PDFファイル240p. サイズ 87MB



リンクQRコード

ホームページ



毎日更新！「note」



amebaブログ



facebook



Twitter

